# VA管理におけるタスクシフト・シェアの取り組み

## Ⅰ.研究目的

近年、平均透析導入年齢は70.4歳と高齢化が進んでおり、高齢においては心血管系の衰退だけではなく、サルコペニア、フレイルといった全身的な問題を抱えている。バスキュラーアクセス(VA)の作成及び管理がより困難になり超音波画像診断装置の必要性が増している。

## Ⅱ.研究方法

当院では早期よりエコーガイド穿刺は取入れられていたが、VAエコーは臨床検査技師または医師により行っていた。VA管理が不十分な状態が継続しており、スタッフのVAに関する知識も不十分であった。2021年よりタスクシフト・シェアに伴う臨床工学技士(CE)の業務検討において、現行制度上でVAエコー検査の施行が認められた。それに伴い2022年度よりCE２名による透析センターでのVAエコー業務が開始された。1.エコーガイド穿刺やVAエコーの教育2.VAカンファレンス3.定期VAエコー検査4.VA不全の早期発見がVAチームの内容となる。

## Ⅲ.結果

定期VAエコー検査では2021年度の検査室での件数138件より2022年度の透析センターでの件数は143件と多くできたが2023年度は93件と大幅に下がってしまった。

## Ⅳ.考察

検査数が下がってしまった要因としてはスタッフのやる気、エコー台数の制限、業務拡大によるスタッフ不足などが考えられた。改善案として2024年度に新しいエコーが導入となりVAチームもやる気があるスタッフへと変更になった。

## Ⅴ.結論

VA管理をする上では環境を整える必要があり、VAチームを中心にスタッフ全員で取り組んでいきたい。

## 引用文献